

世田谷・九条の会

世田谷・九条の会
ニュース No.43
2016年10月5日発行
(題字 西山簡石)

●事務局 〒154-0017 世田谷区世田谷 1-11-16 世田谷民商気付
Tel:03-6413-9547 Fax:03-6413-9548 Mail:setagaya-9jou@kzh.biglobe.ne.jp
●ホームページ <http://www7a.biglobe.ne.jp/~setagaya-9jou>
●郵便振替口座 記番号 00110-5-260741 世田谷・九条の会

子どもたちを「密告者」にしてはならない

佐々木 隆爾



今回の参議院議員選挙でもっとも憤慨させられたのは、自民党文教部会が同党のホームページ上で「調査」サイトを開いたことである。これが世間で「密告」サイトと通称されていたことは、『毎日新聞』7月28日号夕刊の「特集」にくわしく語られている。

その趣旨は、「政治的中立を逸脱した学校の先生がいたら、名前などを教えて欲しい」というもので、教育現場で「政治的中立でない」と思う教員の指導や授業があれば、この自民党特設サイトへ、学校・教員名、授業内容などを送信するよう依頼した。当初は「政治的中立」の逸脱例として、教師が「子供たちを戦場に送るな」などと述べることを挙げていたが、途中からこの事例は削除された。なおこのサイトが開かれたのは、参院選の最中の6月25日で、閉鎖されたのは東京都知事選が公示されてから5日後の7月18日、理由は「事例が集まった」からとされた。これが、今回の選挙で有権者が18歳以上に引き下げられたことを機に、その18歳の高校生をおもな対象とし、彼らを教室や教師の密告者に仕立てようとしたのである。

天下の公党であるはずの自民党が「密告」サイトを開設したことに、ついにここまで来たかと慨嘆させられる。これが「護憲」を否定し、「自主憲法制定」を押しつけるにとどまらず、子供に「スパイ根性」を植えつけ、「密告」を習性にさせようとするからである。「スパイ根性」は、他人（教師）が一個の人格であり、基本的人権を持っていることを無視することからはじまる。他人が個人として尊重され、独自の思想や言論の自由を持っていることを全く考えず、考えの異なる者を「敵」と決めつけ、権力により抹殺させるよう画策する、卑劣な人間の心情である。史上の独裁者はすべて、こうした多数の「スパイ根性」の持ち主によって維持されてきたのである。 (東京都立大学名誉教授 世田谷区桜)

区内九条の会交流会開く

9月17日(土)2016年の第3回目の交流会が世田谷民商の会議室で開かれ、5団体から8人が参加しました。今回の交流会では、参院選、都知事選の結果を受けて、情勢と今後どのような取り組みが必要かについて、率直な意見交換をしました。はじめに世田谷・九条の会事務局から、情勢の概要が時系列を追って紹介されました。参院選直後の2ヶ月間に、参院選論争では全くふれなかった、改憲論議の促進を安倍首相が打ち出し、沖縄高江での本土機動隊を動員してのヘリパッド基地建設強行、福岡高裁の政府の主張を鵜呑みにした辺野古訴訟判決、新安保法制に基づく新たな任務での自衛隊の訓練開始と南スーダンPKO派遣、伊方原発の再稼働、安倍首相の米国の核先制不使用宣言の撤回要請など驚くべきことが次々に起きています。北朝鮮の核実験やミサイル発射実験、中国公船の領海侵犯や南シナ海への進出は、安倍内閣の「危機あじり」を補完するものとなりました。その一方で、鹿児島では原発再稼働に反対する知事が誕生しました。東京では、豊洲新市場の地下空間の問題が明るみに出て、五輪予算の膨張とともに、都政やJOCの問題点が浮き彫りになりました。



参院選の結果、改憲勢力が2/3を超えたことについて、「一部で落胆の声が聞かれるのは確かだが、野党統一の力が実証されたことは大きな成果」、「都知事選で、候補者選定のプロセスに不鮮明なところがあった、選挙戦の進め方にちぐはぐなところがあった」、「結果として結実しなかったが、統一が維持されたのは、今後のたたかいにとって意義深い」、などの意見が出されました。

2000万人署名は、世田谷・九条の会に寄せられたものが、4,216筆でした。これは九条の会東京連絡会の中でも大きな数字で、区内の個人会員、また各九条の会会員が、何度とも街頭で、また個々面談や手紙などを通じて広範に働きかけて得た大きな成果です。事務局として皆さんの奮闘に心から敬意を表します。

一方で、街頭署名活動では、「これほど大きな問題だと思って必死で訴えているのに、無関心なのか無視される」、「家族(子供たち)を含めて、よく話し込んだかと言われると限りがあったかも」、「若い人たちが加わって来ない」、「安倍内閣の暴走があらゆる面で現れているので、保育園待機児童、非正規雇用、ブラックバイト、こどもの貧困、年金など、国民

が日々直面している問題もとりあげて話し合っは、「戦後日本の平和は憲法で守られたのか、米軍の抑止力のおかげか、など本音で議論することが必要なのでは」、「今の高校までの教育では、戦後史はほとんど触れられていない、大学に入っても理系だと現代社会や歴史は学ばないので、ある意味今の若い人たちに（シールズなどを除いて）憲法や政治に関心を持って、というのは無理がある。若い人たちが抱えている問題を取り上げていかないと」などの意見が出されました。

第6回九条の会全国交流討論集会に参加して

表記集会が9月25日に、御茶ノ水の明治大学を会場として開かれました。この集会には全国から500名、世田谷区からは3名が参加しました。

午前中の全体会では、澤地久枝さんと新たに世話人をお引き受けられた12名のうち、出席された6人の方から挨拶と、2名の方からのメッセージが紹介されました。池内了さんからは「軍学共同研究が拡大している」問題、池田香代子さんからは、「沖縄での暴挙への怒り」、伊藤千尋さんからは、「日本国憲法が世界各地に広がっていること」が訴えられました。続いて伊藤真さんから、「司法にも市民の支えが必要、無作為の戦争責任もある」、清水雅彦さんからは、「自衛隊・安保は違憲。運動に世代交代が必要」、山内敏弘さんからは、「抑止力は高まっておらず、東アジアは敵対的悪循環に陥っている」との概要でお話しがありました。早大の浅倉むつ子さんと琉大の高良鉄美さんからは「九条を世界に広めよう」、「沖縄では憲法と安保が対立する構図になっている」とのメッセージが寄せられました。

午後は7つの分散会に分かれて討論がなされました。私は第3分散会で、北海道から福



岡までの主に東北・関東・中部地方の会から発言がありました。内容は事務局が提起した3つの柱（情勢・経験・体制）のうち、主に活動経験の報告と今後の各九条の会の体制への心づもりが紹介されました。各地九条の会の活動報告では、○ニュースを頻度高く作成し、広く配布した、○革新懇など、ほかの多くの団体と協力して集会を開催した、○社会教育団体として登録することで市

民への働きかけを強めてきた、○固定的に考えずに保守系議員にも働きかけてきたなどの声が聞かれました。全体に運動を担っている人が高齢化してきているという嘆きは多くの会から聞かれましたが、「若い人は仕事だけで精一杯で余裕がないのは確かだが、青年層が計画している親子劇場への誘いが九条の会にあった、ベテランの私たちは、若い人たちの運動の“敷布団”を担うような運動が必要」との発言もありました。それぞれの分散会の議論の様子は、近く九条の会で報告書が作成されるとのことです。

生かそう憲法！今こそ九条を！世田谷連絡会 9/9 区民集会



「世田谷連絡会」は、秋の行動として、戦争法が参議院で強行採決されてからおよそ 1 年になる 9 月 9 日、区民会館中庭で区民集会が開かれました。集会には 300 名が集まり、三軒茶屋までパレードを展開しました。集会では保坂区長、区議や都議の挨拶のあと、被爆者が呼びかけた核兵器廃絶を求める国際署名、沖縄高江のヘリパッド建設反対の市民のたたかい、障害者福祉・障害児教育の前進を求める訴えなど 3 名からリレートークがありました。

強い雨の中、国会前に 2 万 3 千人が集まって 1 周年の抗議集会

9 月 19 日（祝日）、国会前で総がかり行動実行委員会主催の集会が開かれました。昼過ぎからの雨がしだいに強まる中、2 万 3 千人もの人が参加しました。集会では野党 4 党の代表、1000 人委員会、憲法共同センター、総がかり行動実行委員会ほか、学者の会、ママの会、8 月に解散した SEALDs、日弁連、元自衛隊レンジャー隊員の井筒氏、沖縄一坪地主の会からの熱のこもった挨拶と訴えがありました。この日は全国 400 箇所で開催されたそうです。集会の様子は <https://www.youtube.com/watch?v=LhGSC9aeT5w> で視聴できます。

終戦記念日によせて

辻怜子さんが語る「私の戦争体験」と映画「ひめゆりの塔」の上映

代田・九条の会

8月20(土)、台風の影響で午前大雨、開催が危ぶまれましたが、幸い午後から晴れ、終戦記念日によせて「戦争体験を語り継ぐつどい」を開催することができました。井の頭線や一部小田急線が運休ということもありましたが参加者は35名、公営掲示板を見て板橋から遅れて駆けつけて来られた人も含め初参加の方が数名ありました。

辻怜子さんは、広島陸軍被服支廠鹿児島出張所の軍属として学校工場で働いた戦争体験を、当時の写真スライドと併せて話した。鹿児島県立第一・第二高等女学校は、昭和19年8月4日附けで学校工場として発足。辻さんは、代表として宣誓し、その様子は、「薩摩乙女の赤誠こめて」と新聞に報道された。5年生は、4ヶ月遅れで、4年生は8ヶ月早く合同で卒業になった。「ミシンは武器、軍服は正装」と、強制提出させられたミシンで、7教室の流れ作業で軍服を縫っていた。学校工場以前に、鹿屋の飛行場で部品を洗う作業を行ったこともあった。昭和20年6月17日大空襲で空が真っ赤に燃えていた。その後奈良女子高等師範に学び、鹿児島に帰宅する際、空襲で線路が繋がっておらず、乗っては歩き、乗っては歩きと7回乗り換え数日かけて帰った。父は病死、叔父宅で沢山の本を読み、「自分で考え行動する」ことを学び、中学校教員などその後の人生に活かしてきた。1989年に年金者組合世田谷支部委員長になり16年、33人から出発し現在800人を越えて発展していると感慨深く話された。戦争体験者が少なくなっているなかで、貴重なお話を聴くことができ大変良かった。

映画「ひめゆりの塔」は、監督・今井正、出演・津島恵子、香川京子など。この映画は、1945年4月1日米軍が沖縄に上陸する数日前の3月26日から始まる。年老いた母1人をおいて来た女学生、乳児を抱え乳も出ない妻を置いてきた先生、焼夷弾の降る薄暗い壕の中でろうそくの灯をたよりに急遽行われた卒業式。多くの負傷兵が横たわる壕の中での瘡部の手当、排泄物の処理、とても飲めそうもない泥水の運搬、同僚の死などなど辛い状況のなかで、明るく振る舞っている乙女たちの映像が映し出された。戦力もなく情報が錯綜する中、無駄死にしていた沢山の沖縄の人びと。

1945年8月15日、本土の人びとが玉音放送を聞く中、沖縄では人口の約9割が「強制収容所」に入れられ「基地の島」となり現在に至っている。基地のない沖縄・日本をめざして日米安保条約第10条の効力を発揮させる日が早く訪れること、戦争は二度とあってはならないと痛切に思った「終戦記念日によせてのつどい」でした。

(小澤 清子)

【代田・九条の会ホームページより転載】

世田谷・九条の会の活動記録

- 2週に1回の事務局会議を続け、「世田谷・九条の会ニュース」No.42を6月に発行した。
- 8月末までの集計数は4,216筆。九条の会東京連絡会に渡した。関係者の皆さんの奮闘に敬意。世田谷全体では約65,000筆、全国では1400万筆以上と報告されている。
- 区労連、地区労、1000人委員会とともに、世田谷・九条の会の4者が事務局を構成する世田谷の広範な共闘組織「戦争させない！九条こわすな！世田谷連絡会」は、毎月事務局会議を開催。8/22には呼びかけ人会議。9/2に下北沢と三軒茶屋駅頭で街頭宣伝行動。9/9の区民集会&パレードへの参加を呼びかけた。
- 7/19、8/29、9/20 九条の会全国交流討論集会実行委員会。主に関東近県から代表が参加。情勢、参院選の結果について、九条の会事務局から報告を受けたほか、各九条の会からの活動経験が報告された。
- 9/12 九条の会東京連絡会。憲法会議平井さんの情勢報告。全国交流討論集会への協力呼びかけ。



手書きステッカーこぼれ話

板垣 武（岡本）

私は板垣とかいう家の玄関先に貼られたステッカー。たて50cm、よこ10cmほどの和紙に、黒々と墨で「守ろう憲法九条」と書かれている。この家のあるじの言うところでは、世田谷・九条の会の呼びかけ人代表で作家の、吉原公一郎氏の手書きの作だそうである。

この玄関前にくる人は、私を一目みてからインターホンを押している。いろいろな人がいる。チラッと見ただけでなにも表情にあらわさず、そのままにしてしまう人。2〜3回読み直してうなずく人。首を横にかしげて不可解な表情の人。人はさまざまである。

ある日の夕方、新聞の集金に訪れた50歳代の男性。ちょうど居合わせたあるじからお金を受け取りながら、私のことを話題にした。「私もいま九条改憲のあぶない時期にきていることはしています。そんなこと絶対に許せないですね」あるじのうれしそうな顔が印象的だった。

別の日の午前中、20歳台後半とおぼしき宅配便の男性が来て、また私のことが話題に。その男性は「そこに貼ってある憲法九条ってなんですか」、あるじ「だから日本国憲法第九条のことですよ」、男性「それって何が書いてあるんですか」、あるじ「・・・・・・」、まさか憲法九条を知らない人がいるなんて・・・・・・。忙しそうな宅配便の男性をつかめて、ながながと説明をはじめていた。

60歳台の女性。「これは達筆ですね。この和紙というのがいいですよ。墨痕あざやかとかいうか・・・・・・」と。話のなかみにはふれずに書だけほめてそのまま・・・・・・。本当に人はさまざまである。

その私は、長い間天日に干され、風雨にさらされつづけたため、変色しところどころ破れてきたので、いまは蔵の中。またもう一度おもてにでたいなあ。

代沢九条の会 この一年

松田こずえ（代沢）

9月19日をむかえます。第二次安倍政権発足(2012.12)以来、九条をなきものとする画策が次々と実現され、ついにこの夏の参院選の結果、衆参両院の改憲派が2/3に達しました。私たちは、崖っぷちです。振り返ってみます。

代沢九条の会では昨夏『世田谷区代沢・北沢地域住民ほかによる安保法制の廃案を要求する声明』を出すために奔走。最終的に239名の賛同を得て発表しました(9月18日付)。成立後は『戦争法の廃止を求める全国2000万統一署名』で、地域から3,000筆を集めることを目標に掲げて署名活動を展開。会員が集めるほか、さきの『声明』の賛同者全員に手紙をだし署名集めを依頼しました。依頼を受けた方が地方の実家の母親に頼んでくれ、50筆が送られてきました。また沖縄の辺野古基地のゲート前で、100筆以上の署名を集めてくださった沖縄在住の方もいました。沖縄からは折り返し、『辺野古埋め立て用土採取計画の撤回を求める署名』、『沖縄・辺野古基地のケーソンをつくるな！署名』(辺野古土砂搬出反対全国協議会関連)が送られてきて、さっそく署名を集めました。池ノ上の駅頭や代田・九条の会の方と一緒に、下北沢オオゼキ前で署名を呼びかけました。

最終的に代沢九条の会として2000万署名は1300筆を集めて世田谷・九条の会に渡しました。参院選では、市民連合に賛同して野党共闘実現に奔走したり、集会やお散歩デモに参加したり、それぞれが行動していました。公示直前の6月15日に発行・配布した『代沢けいじばん』では、参院選を詳しく解説し、「選挙に行こう！」と呼びかけました。

それでもここまできてしまった。止められなかった～まるで何もしてこなかったような無力感。普通の人、駅で降りてきて、ビラを無視したり、受け取ってもしまいだんだり、あまり関心なさそうな人たちには、なにも伝わらないのでは、という疑念がぬぐえない。

私たちはこれから会としてなにをしたらよいのか、事務局会議のたびに話し合っています。月1回の例会では、10名くらいのいつものメンバーが現状について感じていることなどを語り合い、またテーマのもとにミニ勉強会をしています。最近では自民党の改憲案、日本会議などについて理解を深めました。でも仲間うちの例会では意味がない、例会に来る人



を増やすべきだ、もっと身近な問題をとりあげよう。

いや、イベントを催すほどの機動力はないし・・・
なんとって、シニアばかりなんだもの、などなど。

とにかく、例会と『けいじばん』は続けよう。『けいじばん』では、今、何が起こっているか、事実に基づいて、大事なことを普通の人の目線で伝えていこう。やりながら考えていこうよ～というのが実状です。

当面の行動予定

- 10月7日（金） 18:30～ 「生かそう憲法！九条こわすな！」 定期街頭宣伝行動
- 10月15日（土） 12:00～ TPPを批准させない！中央集会・デモ（東京・芝公園）
- 10月19日（水） 18:30～ 戦争法廃止！安倍内閣退陣！総がかり行動（東京・国会前）
- 10月27日（木） 18:30～ 「生かそう憲法！九条こわすな！」 世田谷憲法学習会
梅が丘パークホール
- 10月30日（日） 青森市 南スーダン自衛隊派遣抗議集会 総がかり行動実行委員会
- 11月19日（土） 13:30～ 世田谷・九条の会 11周年記念のつどい 三茶しゃれなあど集会室 【一橋大名誉教授・九条の会事務局の渡辺治さんの講演と、親子ばとコーラス】

編集後記

8月末に沖縄・高江に行ってきた。ブロッコリーのようなイタジイが茂るやんばるの森は、予想以上に静かで何がひそんでいるのかと思わせるほど神秘的。これとまるで不似合いな機動隊車列と無表情のガードマンが路上に並ぶ。森を乱伐し、東村高江の集落を取り巻くように、オスプレイパッドの新設が強行されている。ヤンバルクイナやノグチゲラはどうなるのか？猛烈な騒音と事故の危険は？沖縄では戦後の米軍の力づくでの接收が、今は日本政府の手で、自然と住民の生活を破壊しながら進められている。“やまとんちゅ”の傍観は許されない。